

セクシュアリティ・スタディーズ 入門から現状まで

日時 2019年11月22日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 守 如子（社会学部教授）

#MeToo運動やLGBTの権利…など、近年、性（セクシュアリティ）に関する問題が話題を集めている。本講座ではこのような性に関する問題を考えるために、セクシュアリティ・スタディーズを紹介していく。

筆者は、昨年、3人の共著者とともに、『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』（風間孝・他、法律文化社、2018）を上梓した。この本では、人間の性の総体とも呼ぶべきセクシュアリティに対して、ジェンダー、恋愛、性行為、性的指向、性自認、ジェンダー表現、パートナーシップ、性暴力、性感染症、そして性の商品化などの観点から焦点を当てている。今回の講座では、(1)セクシュアリティ・スタディーズとは何かを取り上げたうえで、さまざまなトピックの中から、(2)若者の性愛の変化と、(3)LGBT学生の実態、(4)少子化対策に生じた問題に注目してみたい。また、筆者は、日本性教育協会（JASE）が全国の中学・高校・大学生を対象に1974年から6年ごとにおこなってきた「青少年の性行動全国調査」の調査委員でもある。最新のデータは、『「若者の性」白書』（日本性教育協会編、小学館、2019）としてまとめられている。この講座では、この調査データに基づき現状を捉えていく。

◎若者の性愛の変化：かつて、若者の性行動は「性の早熟化」といった視線で捉えられてきた。そして、2000年代に入ると、今度は「草食系」といった言葉が流行した。若者の性の実態はいかなるものなのだろうか。若者の性愛の変化と現状を捉えることを試みる。

◎LGBT学生の実態：学校の中にも、レズビアンやゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、アセクシュアル…など、多様なアイデンティティをもつ生徒・学生が存在している。調査データからみえる、LGBT学生の状況を考察する。

◎少子化対策に生じた問題：2015年、高校保健の副教材で妊娠に関するデータが改ざんされていたことが研究者たちの追求によって明らかになるという事件が起きた。その背景には少子化対策の暴走があると分析されている（西山千恵子・他編『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社、2017）。この事件の問題性と、リプロダクティブ・ライツを再考する。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。
手話通訳が必要な場合は、10月31日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>